

社会教育委員会議 会議概要

1	審議会名	上田市教育委員と社会教育委員との懇談会
2	日 時	平成30年12月19日(水) 午後3時30分から4時まで
3	会 場	教育委員会 第1会議室
4	出席者	鞆山永子委員 関和幸委員 山浦美幸委員 金子昌平委員 竹花のり子委員 早坂淳委員 青木千浪委員 【欠席：茨木委員 宮島委員 山崎委員】
5	市側出席者	峯村教育長 北沢職務代理者 平田教育委員 横関教育委員 綿谷教育委員 中村教育次長 石井教育総務課長 高木学校教育課長 小林生涯学習・文化財課長 清水上田図書館長 西澤総務企画係長 小山生涯学習係長 内海生涯学習係主査
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	31年2月15日

協議事項等

1	開会(司会：小林課長)
2	提言書の提出(関代表から峯村教育長へ)
3	あいさつ(代表、教育長)
4	自己紹介
5	懇談会 (1) 提言の概要説明 (2) 懇談 (社会教育委員) 義務教育を終えた後の社会教育を考えないといかない。いかに活性化を図って継続していくかを考えると、高齢者の活用が非常に重要になる。公民館職員のお力を借りながら、ことぶき大学・大学院で学ばれる高齢者の方々に、卒業後は地域の活性化に役に立つ活動、つまり自分で出来る範囲で、ボランティア活動で社会貢献という意欲を引き出すような学びをしていただきたい。 (教育長) 生涯学習として集った者が、学びを深めてその学びを人に伝えることでより深まる。そういうスパイラルな生涯学習が良い。これから大変不透明でIT化が進む社会で、子どもたちにどんな力をつけなければいかと毎日悩んでいる。自分で考え自分で判断し自分で行動する、それに合わせて探究的な学びをしていかないといけない。そこで生涯学習を生かさせていただく接点がある。 (社会教育委員) 「地域学校協働活動」は、平成29年に社会教育法の一部が改正され登場した新しい言葉で、これまで学校支援地域本部と呼ばれていた支援が協働という言葉に置き換わった大きな変換である。学校と地域があるいは学校と地域と行政が、また市民が並列対等な立場で子どもを真ん中にして皆で子どもを育てていくという転換の非常に大きなきっかけとなり得る事業が今全県で推進されている信州型コミュニティスクールだと私達社会教育委員は理解している。この大事な時代の節目をしっかりと捉えてこれから社会教育、あるいは生涯学習の分野でしっかり生かしていきたい。 (教育委員) 学校も地域も、地域に含まれる保護者も、学校の子どもたち、教職員も、行政もお互いが良くなっていく、お互いにとってプラスになっていく、WINWINの関係が望ましい。 (教育委員) 今の子どもたちに地域の魅力を感じてもらおうような地域づくりをしていかなければいけない。企業にも魅力がなければ子どもたちも戻らない。大学で勉強したら上田地域にまた戻って来たいという地域づくりをしないといけない。そのための信州型コミュニティスクールが非常に重要だと思う。 (社会教育委員) 今、地域も学校も市民の気持ちもだいぶ変わってきた中で、コミュニティスクールで大きな役割を果たしている統括コーディネーターはすごい活動だと思う。市内の学校の特色を生かした学校づくりができるよう、より密に活動していただくために是非増員を検討いただきたい。

- (教 育 長) 学校が歩んできた歴史や地域の方の想い等が反映されてそれぞれの学校のコミュニティスクールのカラーが出てくる、それを大事にしていけないといけない。やはり人手不足で、多くの学校に支援に入るのは一人では難しい。統括コーディネーターは横の関係・人を知らない。誰でも出来るという事ではない。大事に検討していきたい。
- (社会教育委員) 変化の時代で先が読めないというのが、今だけじゃなく過去にもあったと思う。例えば職業もAI が出て半分にとセンセーショナルに言われているが、私たちの親の世代だったら食べていた仕事がどれだけ無くなったかを考えるといつの時代も先は見通せなくて、人の生き方はそうそう変わっていない。図書館はそういったことをじっくり考える場所。どうしても憩いの場所とか趣味の場所と思われがちだが、市民が宝の山と思ってくくださるような運営・活用を希望する。教育は長期的視野が絶対に必要。人間らしく私たちが暮らせるように守っていただけるとありがたい。
- (教育委員) いつの時代も大変で、大変な時代だからこそ希望でもあった方がい。少子高齢化を逆に言うと高齢者が活躍出来る時代で、生涯学習に繋がる。皆で共に育つというのがすごく大事だと思う。やはり「人をつくるのは人だ」と。そこは絶対に変わらないと思う。是非プラス思考で教育を進めて欲しい。学校も昔より開かれている。自己肯定感の低い子どもが、地域の方と関わることで自分の有用感を得ることで変わっていくのではないか。人は未知数なので学ぶことで新しい職業も増えていくと思う。
- (教育委員) いわゆる建物・箱物の整備について市教委で十分にやって長期構想で考えていて、特に中央図書館についてはしっかり考えられているので期待している。図書館はその都市の文化だと思うので上田市の中央図書館がどういう形になるかを非常に期待したいし期待してもらって良いと思う。今後を見ていただきたい。
- (社会教育委員) 図書館はスペースの問題、予算の問題もあってなかなか寄贈も受け入れられない状況だが、将来の為に地域の貴重な資料をなるべく受け入れる努力をしていただきたい。失ってからでは取り返しがつかないものもあり、全てとは言わないが見極めてなるべく残す努力を重ねて欲しい。
- (教 育 長) 先日インターネットで調べても出てこない古い資料を図書館で見つけてもらい有り難さを痛感した。特に地域に関わる資料こそ大事にしてほしい。以前に県で、図書館・博物館等の社会教育施設でどんなボランティアがあって、どんな活動が可能なのかを学ぶ会教育施設ボランティア養成講座あった。体験的な学びがボランティアを増やし図書館を活性化する方法になると思う。図書館は大事な施設なのでこれからも充実について頑張っていきたい。
- (社会教育委員) ボランティアを育てるということは余計な仕事が増えるということで、今人が減らされている中でもボランティアをというお考えでしたら是非増員を。今回の提言では踏み込んだ提言をさせていただいた。図書館の現場はぎりぎりのところまで追い込まれているので是非その辺も含めて考えていただきたい。
- (社会教育委員) 寄贈本は、図書館で受け入れるまでの作業たるや非常に大変だが、可能なら保存整備した後市民が利用できるようにご配慮いただきたい。
- (教育委員) 2年前、信州型コミュニティスクールを進めて欲しいと提言をいただかなければここまで進んでいかないと実感した。子どもを真ん中にして学校、地域、企業、また保護者、そこをつなぐのが行政で、熱い思いを持ったたくさんのボランティアさん、その点と点をどのように行政が結び付けていくかを改めて考えないといけない。ただ行政も大変で、それぞれ自分の時間を削って頑張っている。背景には財源の事とかもあってなかなか進まない事もあるが。
- (社会教育委員) 上田市は県内でも特に公民館活動が非常に特筆すべき活動だ。提言は2年毎に出しており、社会教育委員は、会ではなく個人なのでそれぞれ個々に意見を述べるができるが、上田市は社会教育委員皆で話し合いをして、この提言書を作成した。